

フラッシュメモリ内蔵／ワンセグ／5.0型QVGA／パーソナルナビゲーションシステム

EP001

取付キット

CR001

取付説明書

090003-3200A700

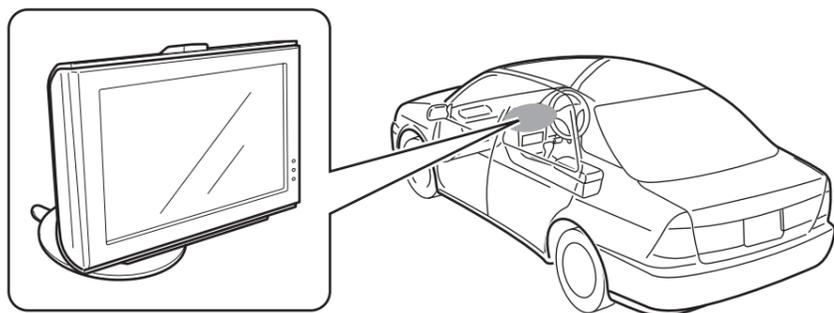
お客さまへのお願い

- 取り付けおよび接続を行う前に、必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。
- 指定以外の取付方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。
- 本機の実取り付けには、専門技術と経験が必要です。取り付け作業が困難な場合は、お買い上げの販売店での取り付けをお勧めします。
- 安全運転のため、ご使用前に「取扱説明書」、「取付説明書」をよくお読みうえ、正しくお使いください。
- 「取扱説明書」、「取付説明書」をお読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

—販売店様へ—

取り付け、接続作業が完了しましたら、この取付説明書をお客様へお渡しください。

取付概要図



構成部品

作業前に構成部品が揃っているか、汚れや傷がないか確認してください。

●本体関係

①メインユニット※ ×1	②クレードル (本体用台座) ×1	③クレードル (取付スタンド) ×1
④取付シート ×1	⑤接続コード ×1	⑥シガー電源コード ×1
⑦クレードル用ストラップ ×1	⑧タッピングスクリュー (φ4×12) ×1	⑨ショートコネクタ ×3
⑩クランパー ×9	⑪クリーナ ×1	

※メインユニット①はEP001のみ同梱されています。CR001には同梱されていません。

●その他

その他の構成部品(取扱説明書、取付説明書、保証書などの資料類)

作業の進め方

- 1) 構成部品の確認 (☞ 構成部品)
- 2) バッテリーの⊖端子を外す
(取り付け作業中、ショート事故防止のため)
- 3) 接続を確認する (☞ 接続のしかた)
(☞ システム接続例)
- 4) クレードルを取り付ける
- 5) メインユニットを取り付ける
- 6) 配線する
- 7) バッテリーの⊖端子を元に戻す
- 8) 作動確認をする (☞ 取り付け後の作動確認)

安全に正しくお使いいただくために

お客様や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。その表示と内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

❗ : しなければならないことを表しています。

⚠ : 注意をしなければならないことを表しています。

🚫 : してはいけないことを表しています。

●本機取り付けのために必ず守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。

アドバイス この表示は、本機の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと、知っておくと便利なこと、知っておいていただきたい内容を示しています。

警告

- ❗ **本機は DC12V/24V ⊖アース専用です。**
ただし、各種信号線の入力は 12V 車のみ対応しています。
- ❗ **取り付け作業前には、必ずバッテリーのマイナス⊖端子をはずしてください。**
プラス⊕とマイナス⊖経路のショートによる感電や怪我の原因となります。
- 🚫 **シガー電源コードを接続した状態で、バッテリーの端子の抜き差しはしないでください。**
- 🚫 **本機を次のような場所には取り付けしないでください。**
本機を、前方の視界を妨げる場所や、ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所などには絶対に取り付けしないでください。交通事故や怪我の原因となります。
- ⚠ **車体に穴をあけて取り付ける場合は、注意して作業を行ってください。**
車体に穴をあけて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行ってください。火災の原因となります。
- ❗ **ドリル等で穴あけ作業をする場合は、ゴーグル等の目を保護するものを使用してください。**
破片などが目に入ったたりして怪我や失明の原因となります。
- 🚫 **車体のボルトやナットを使用して機器の取り付けやアースを取る場合は、ステアリング、ブレーキ系統やタンクなどの保安部品のボルト、ナットは絶対に使用しないでください。**
保安部品を使用しますと、制動不能や発火、事故の原因となります。
- 🚫 **本機を分解したり、改造しないでください。**
事故、火災、感電の原因となります。
- ❗ **ヒューズを交換するときは、必ず規定容量（アンペア数）のヒューズを使用してください。**
規定容量を越えるヒューズを使用すると、火災の原因となります。
- 🚫 **画面が出ない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。**
そのまま使用すると、事故、火災、感電の原因となります。
- ❗ **万一、異物が入った、水がかかった、煙りが出る、変な匂いが出るなどの異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に相談してください。**
そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。
- 🚫 **エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に本機の取り付けと配線をしないでください。**
車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグ動作を妨げる場所に取り付け・配線すると誤作動を起こしたり、交通事故の際、エアバッグシステムが正常に動作しないため、怪我の原因となります。
- 🚫 **電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対に止めてください。**
電源コードの電流容量がオーバーし、火災、感電の原因となります。
- ❗ **接続したコードや使用しないコードの先端など、被覆がない部分は絶縁性テープ等で絶縁してください。**
ショートにより火災、感電の原因となります。
- ❗ **コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておいてください。**
ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻きつくこと事故の原因となり危険です。

警告

- ❗ **必ず付属の部品を指定通り使用してください。**
指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できずに外れることがあり危険です。
- ⚠ **車体のねじ部分、シートレール等の可動部にコード類をはさみ込まないように配線してください。**
断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。
- ❗ **取付説明書で指定された通りに接続してください。**
正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。

注意

- ❗ **本機の取り付け・配線には、専門技術と経験が必要です。**
安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。誤った配線をした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。
- 🚫 **雨が吹き込むところなどの水のかかるところや湿気、埃、油煙の多いところへの取り付けは避けてください。**
本機に水や湿気、埃、油煙が混入しますと、発煙や発火、故障の原因となることがあります。
- 🚫 **しっかりと固定できないところや振動の多いところへの取り付けは避けてください。**
本機が外れて運転の妨げとなり交通事故や怪我の原因となることがあります。
- 🚫 **直射日光やヒーターの熱風が直接当たるところなどへ取り付けしないでください。**
金属部分が高温になり、火傷をする可能性があります。また、本機の内部温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。
- 🚫 **本機の通風孔や放熱板をふさがしないでください。**
通風孔や放熱板をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- ❗ **コードが金属部に触れないように配線してください。**
金属部に接触しコードが破損して火災、感電の原因となることがあります。
- ❗ **コードの配線は、高温部を避けて行ってください。**
コード類が車体の高温部に接触すると被覆が溶けてショートし、火災、感電の原因となることがあります。
- 🚫 **コード類を決して途中で切断しないでください。**
コード類には、ヒューズなどが付いている場合があるので、保護回路が働かなくなり、火災の原因となることがあります。
- 🚫 **電源用リード線をバッテリーに直接接続しないでください。**
機器を動作させるための電流容量が不足して、バッテリーから直接、電源を取る必要がある場合はバッテリー専用の配線キットを使用してください。
- ⚠ **コード等の車内への引き込みは、十分注意してください。**
雨、水の車内への浸入を防ぐためコード等の車内への引き込みには十分気をつけて作業を行ってください。車内に浸水すると、火災や感電の原因となることがあります。
- ❗ **本機の取付場所変更時は安全のため必ずお買い上げの販売店へ依頼してください。**
取り外し、取り付けには専門技術が必要です。

ナビゲーションの取付位置について

国土交通省の定める道路運送車両の保安基準の改正(平成17年1月1日)に伴い、下記の範囲内の視界を確保することが義務付けられました。

ダッシュボード上に機器を取り付ける際は、下記イラストのように、運転者の視界を妨げないように取り付けてください。

前方視界基準

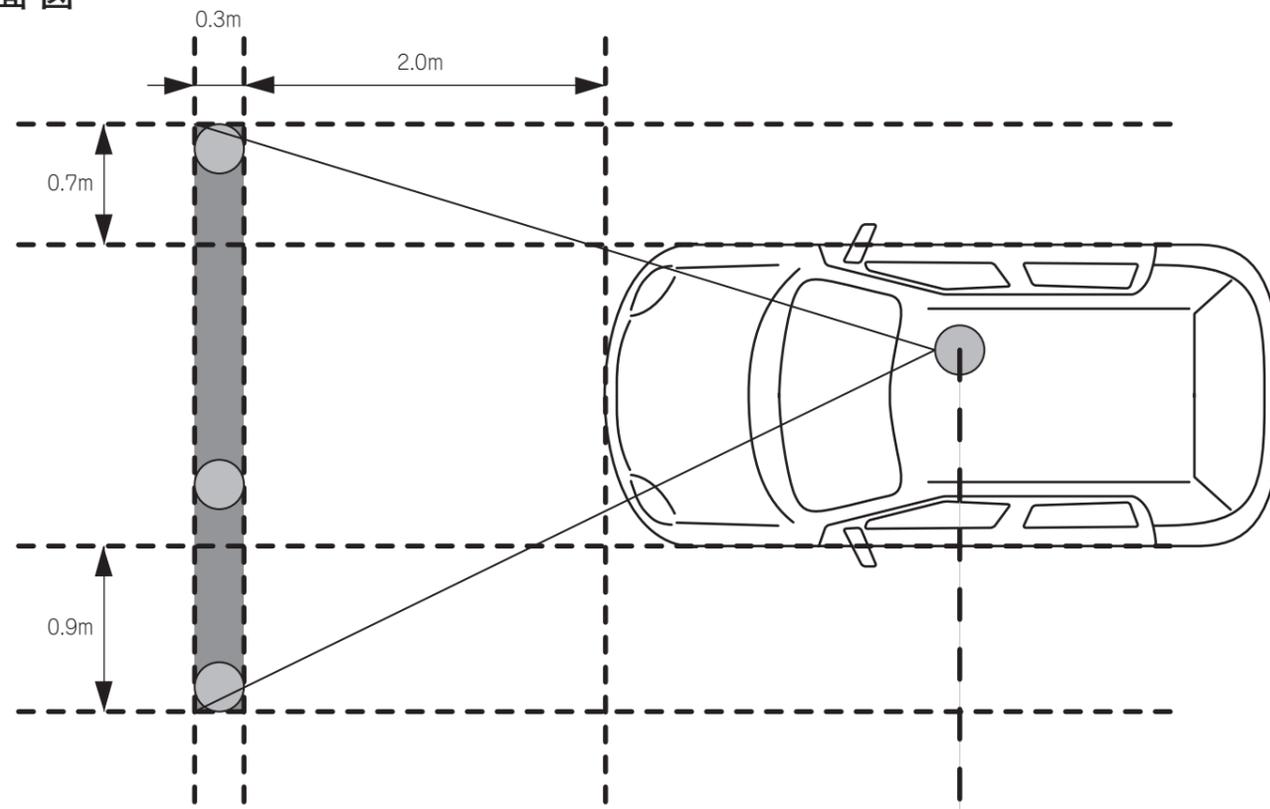
■ 対象車種

- ① 専ら乗用の用に供する自動車(乗車定員11人以上のものを除く。)
- ② 車両総重量が3.5トン以下の貨物自動車

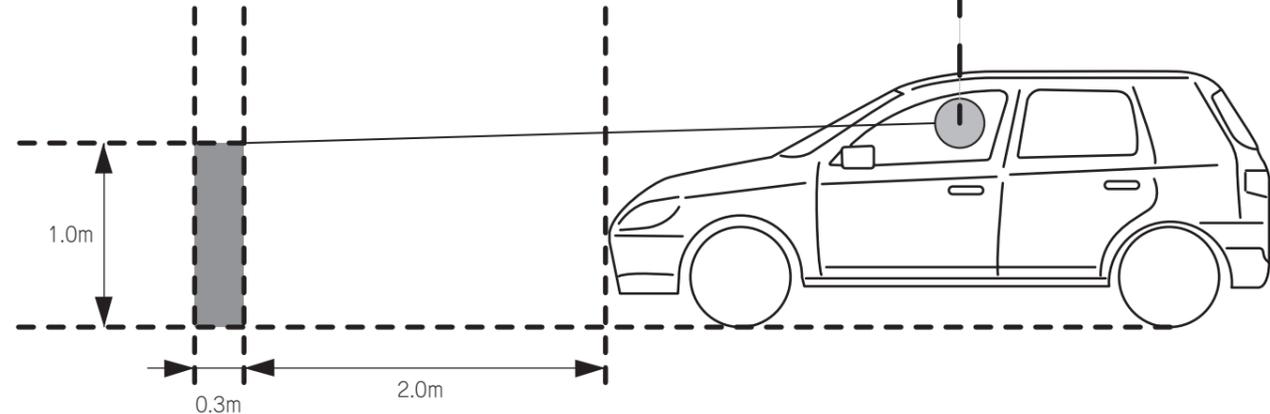
■ 基準概要

自動車の前方2mにある高さ1m、直径0.3mの円柱(6歳児を模したものを鏡等を用いず直接視認できること。

上面図



側面図



※イラストは右ハンドル車の例です。左ハンドルの場合は、左右逆になります。

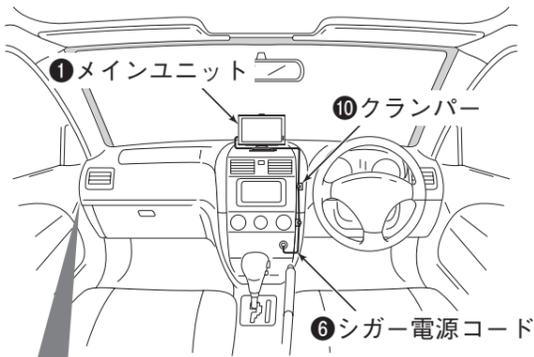
取り付けと配線

アドバイス

- テレビ、ラジオ等の送信アンテナ塔付近では受信している周波数以外の電波の影響により、画像・音声が乱れる場合があります。
- 山陰や送信所から遠いところ、ビルとビルの谷間等電波状態が悪い所では鮮明な画像が得られないことがあります。
- ワイパー動作、車の電装品動作時にノイズの影響により電界が乱れ、画像が乱れる場合があります。

ナビゲーション取付概要図

- 取付説明書の指示通りに作業されない場合、保安基準適合品として認められないことがあります。必ず指示通りに取り付けてください。

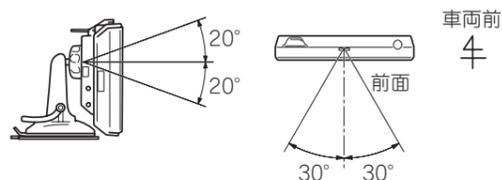


コード配線時は、内装トリムを取り外します。

取り外し作業が困難な場合は、車のお買い上げ店や最寄りのディーラーにお問い合わせください。(作業工賃は、お客様にご負担いただく場合があります。)

メインユニット取付角度に関するご注意

- 取付角度が大きい場合、自車位置スレなど本機の性能を十分に発揮できない場合がありますので、上下の傾きはできるだけ水平になるように取り付けてください。傾けて取り付ける場合は、取付角度が水平に対して上下20度以内になるように取り付けてください。左右の傾きは、メインユニット前面の角度が車の進行方向に対して30度以内になるように取り付けてください。



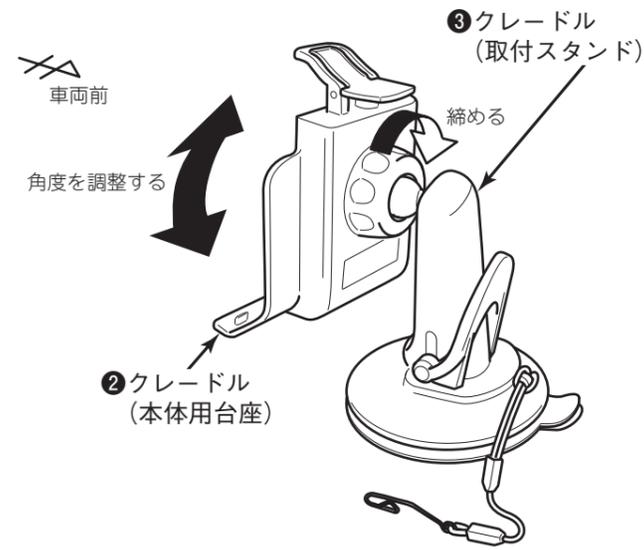
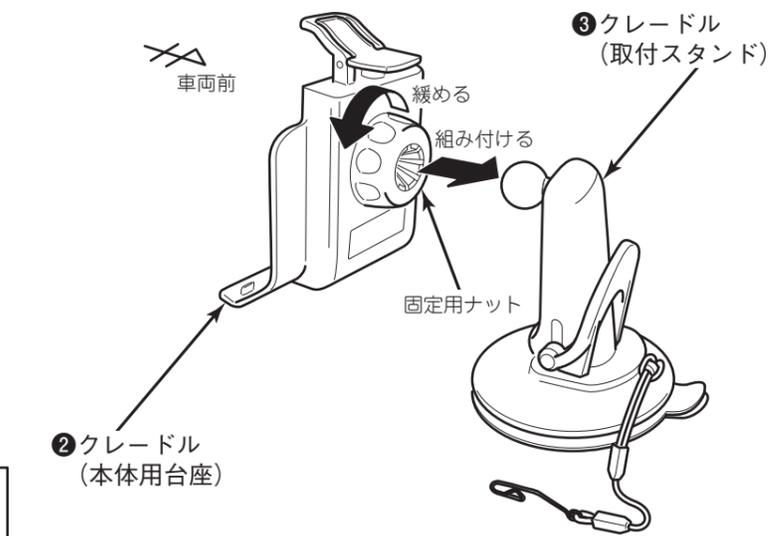
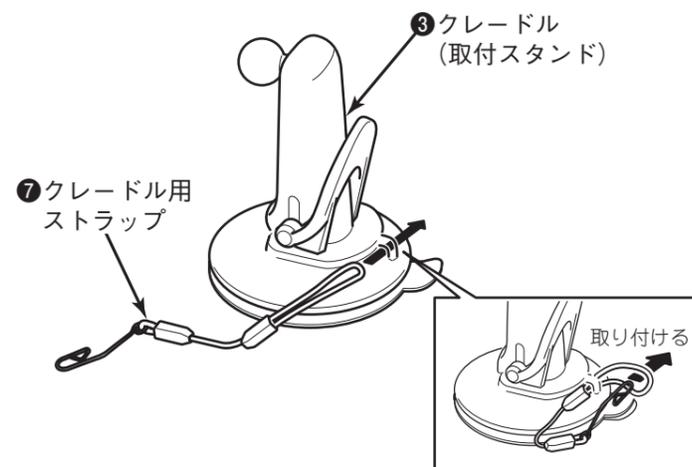
メインユニット取付位置に関するご注意

- アンテナを伸ばした場合にフロントガラスに当たらない位置に取り付けてください。
- 本機は、ETC車載機器や無線機、携帯電話、レーダー探知機など強い電波を送受信する機器から離れた位置に取り付けてください。これらの機器の近くで本機を使用すると、以下のようなことが起きる場合があります。
 - ・画像が乱れる。
 - ・自車位置が正しく表示されない。
 - ・ETC車載機器や無線機、携帯電話、レーダー探知機などが正常に動作しない。
- 取付位置表面の汚れ、水分、油分などをよく拭きとってから取り付けてください。
- 気温が低い(20℃以下)とテープの粘着力が弱まります。ヒーター等で車室内を暖めてから貼り付けてください。
- 必ず指定のクレードルを使用してください。
- エアバッグが装着されている車両に取り付ける場合は、絶対にエアバッグのカバー部分および作動時の妨げになる場所には取り付けないでください。(取付位置の安全性を考慮し、販売店またはカーディーラーにご相談の上、取付位置を決めてください。)
- フロントガラスには取り付けしないでください。
- ダッシュボード上の凹凸により十分な貼り付け強度が得られない場合は、再度平らな場所へ貼り付けてください。
- 本機の取付位置は、ダッシュボード上の平滑で凹凸のない、なるべく水平な場所に取り付けてください。



1 クレードルを組み付ける

- ① クレードル(取付スタンド)にクレードル用ストラップを取り付ける。
- ② クレードル(本体用台座)背面の固定用ナットを緩める。
- ③ クレードルを組み付ける。
- ④ クレードルの角度を調整する。
- ⑤ クレードル(本体用台座)背面の固定用ナットを締めて固定する。



2 クレードルをダッシュボードに取り付ける

- ① 取付シートの貼付位置を決める。

- 左記の「メインユニット取付位置に関するご注意」をご確認の上、貼付位置を決めてください。

注意 タッピングスクリューで取付シートを固定する際、ダッシュボードが割れたり、ダッシュボード内の配線等に干渉する恐れがありますので、お買い上げの販売店またはカーディーラーへご相談ください。

- ② 取付シートを貼り付ける。

- 両面テープを貼り付ける部分の汚れ、水分、油分をきれいにふき取ってください。
- 貼り付けた後は、確実に密着するよう取付シートを十分押し付けてください。
- 取付シートには、ドライヤー等を使用しないでください。

- ③ タッピングスクリューで取付シートを固定する。

注意 タッピングスクリューで取付シートを固定する際、ダッシュボード内に車両ハーネスがないことを確認してください。

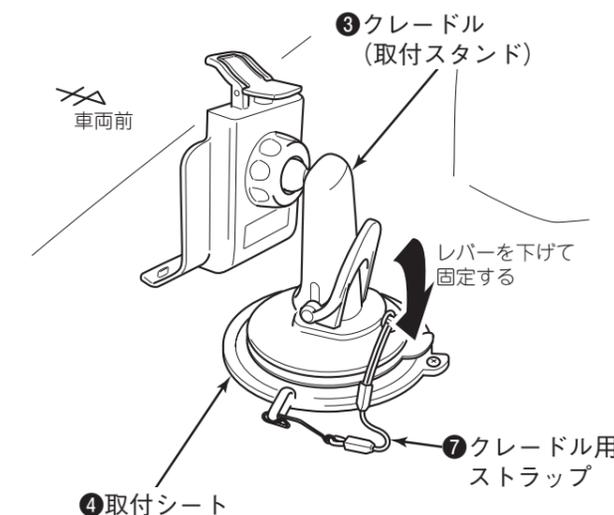
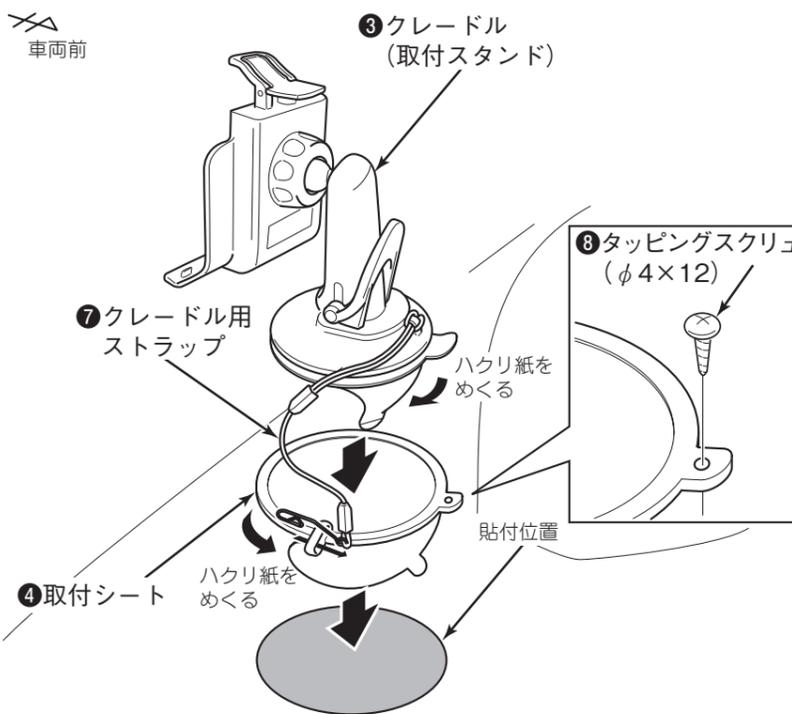
- ④ クレードルを取付シートに取り付ける。

- ⑤ クレードルと取付シートをクレードル用ストラップでつなげる。

- ⑥ クレードルのレバーを下ろして固定する。

アドバイス

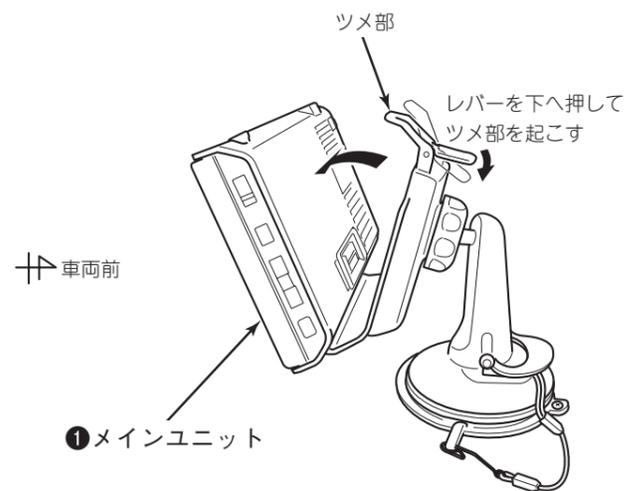
- クレードルを取り付ける際は、落下防止のため、取付シートとクレードル用ストラップを使用してください。取付シートなしでも取り付けは可能ですが、ダッシュボードが吸盤の吸引力により、浮き上がる場合がありますのでご注意ください。また、ゲルは取り付け後、時間の経過とともに吸着力が上がるようになっております。取り付け後、長時間経過すると、ゲルの成分がダッシュボード上に付着する場合がありますため、取り外し後の再使用ができません。本機を別のお車へ載せ換える等の場合は取付キットCR001を使用してください。



注意 必ずレバーを下げて固定してください。レバーを下げないと、吸着力が不足し脱落する可能性があります。

アドバイス

●メインユニットを取り外す際、クレードル上部のツメ部をおこして取り外してください。



3 メインユニットをクレードルに組み付ける

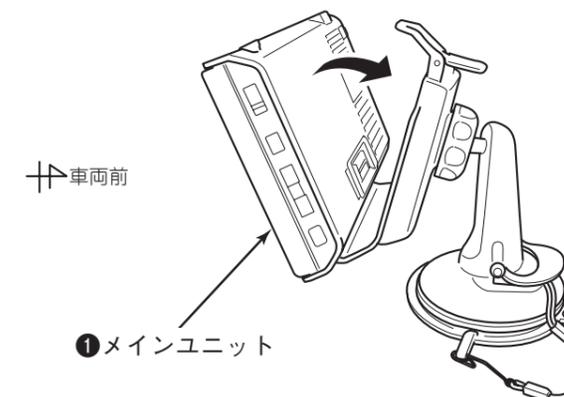
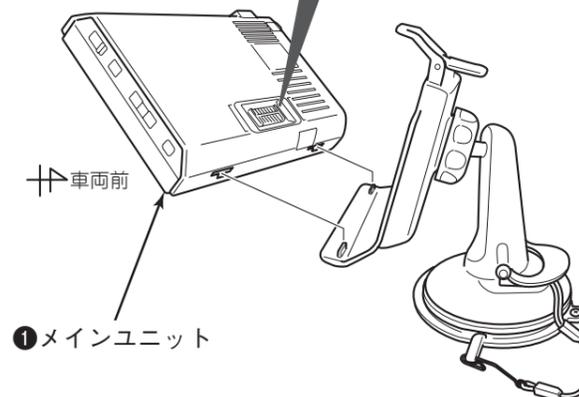
① メインユニット底面の切り欠き部とクレードルのツメ部を合わせて組み付ける。



注意

メインユニット裏面の端子部に水やホコリが付着しないように確実にクレードルに取り付けてください。

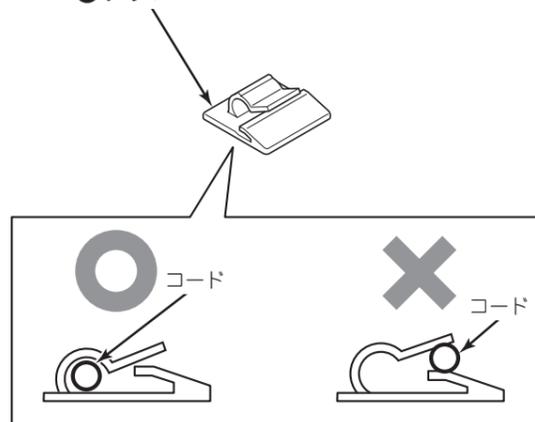
注意



クランパーの使い方

●クランパーでコードを固定する際、クランパーでコードをかみ込まないように注意してください。

⑩ クランパー

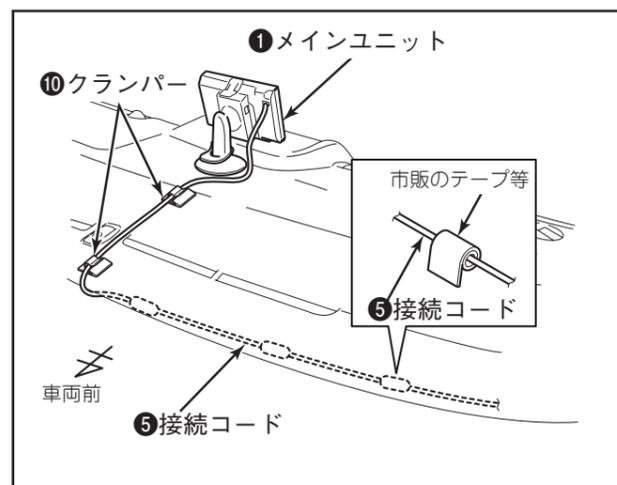


4 接続コードを配線する

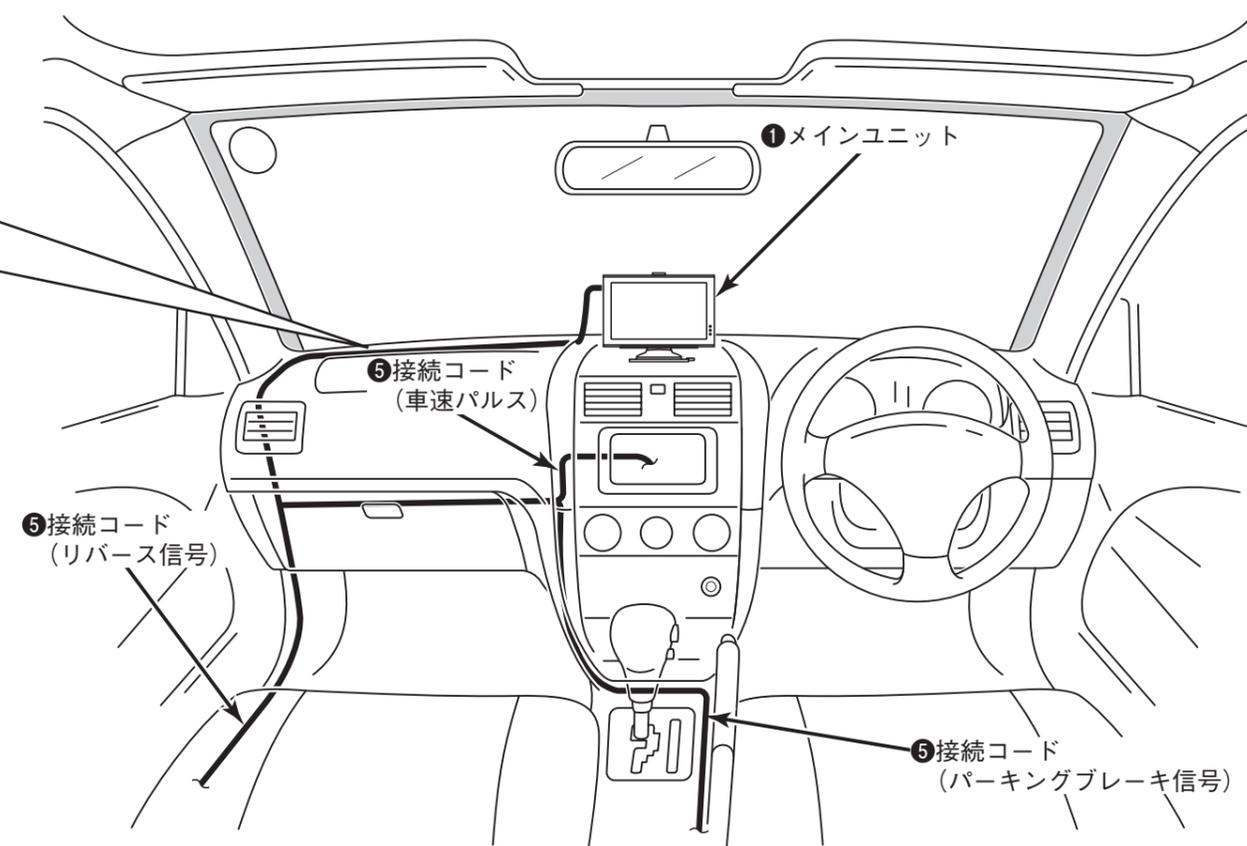
●接続コード⑤を接続している場合のみ、本作業をおこなってください。接続コード⑥を接続しない場合は、本作業は不要です。

① 接続コード(車速パルス、リバース信号、パーキング信号)をクランパーなどで固定しながら各信号の取出位置まで配線する。

●クランパーを貼り付ける際、貼付位置の汚れ、水分、油分をよく拭き取ってから貼り付けてください。
●各信号線の詳細については「接続のしかた」を参照してください。



(配線例)



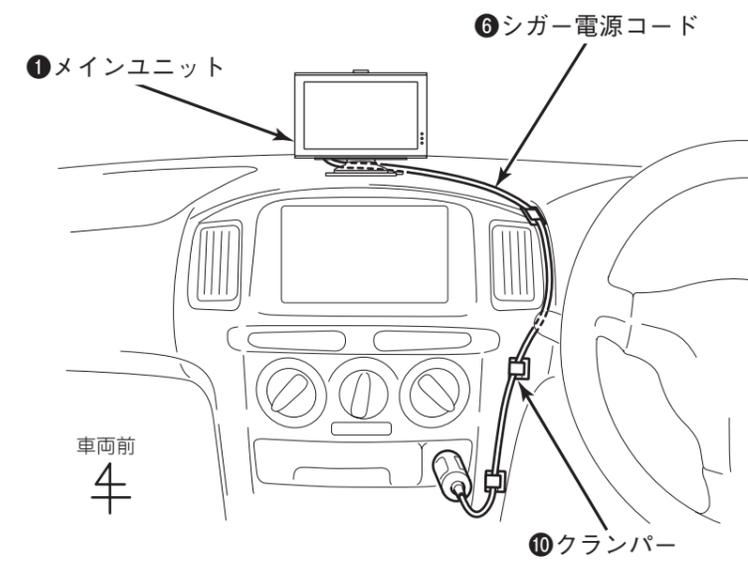
注意

車両によって、各信号の取り出し位置は異なります。任意の配線経路で作業をおこなってください。

5 電源コードを配線する

- ① 電源コードをクランパーなどで固定しながらシガー電源の取出位置まで配線する。

●クランパーを貼り付ける際、貼付位置の汚れ、水分、油分をよく拭き取ってから貼り付けてください。



接続のしかた

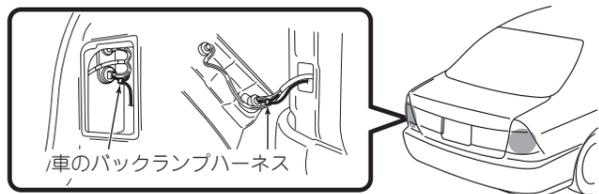
お願い

- 信号の取り出し位置は、車種やグレードにより異なります。詳しくは、お買い上げの販売店または自動車ディーラーにお問い合わせください。
- 必ず付属のショートコネクタを使用して接続してください。指定外のショートコネクタを使用すると接触不良の原因になります。
- 指定以外のものを接続しないでください。故障の原因となります。

リバース信号端子(紫/白色)

車のバックランプハーネス等(シフトレバーを「R」の位置にしたときに電圧が変化するハーネス)に接続してください。

- シフトレバーを「R」にした時に6V以上の検知電圧値になることをテスターで確認してください。



車速パルス信号端子(桃色)

車の車速パルス信号ハーネスに接続してください。
※車速パルスを接続しなくてもナビのご使用は可能です。



パーキングブレーキ信号端子(若草色)

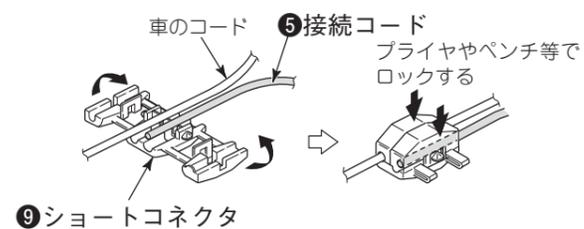
車のパーキングブレーキスイッチの+側ハーネスに接続してください。

例1)パーキングブレーキが
ハンドブレーキの場合

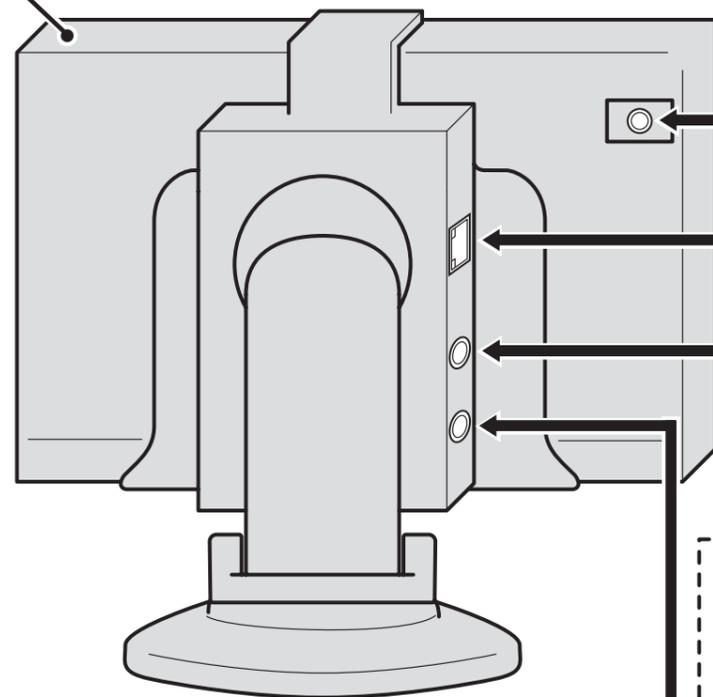
例2)パーキングブレーキが
フットブレーキの場合



ショートコネクタの使用方法



①メインユニット

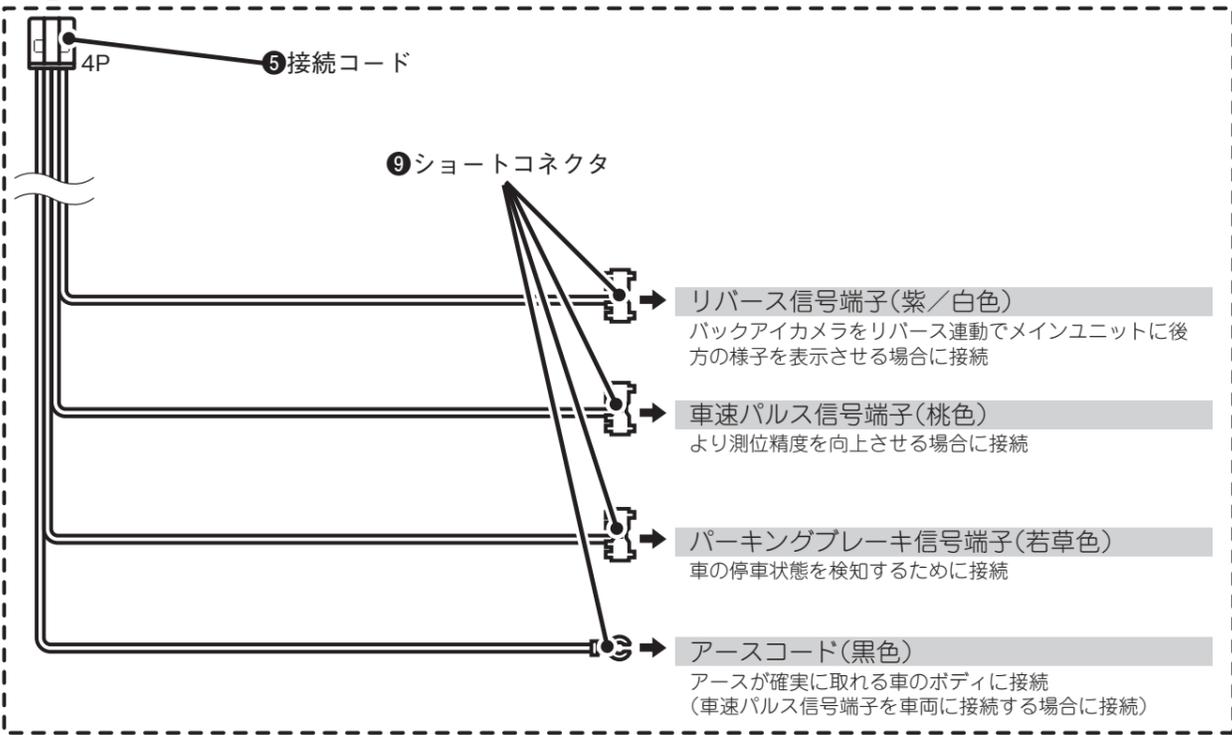


GPSアンテナ接続端子
別売の「GPS001」を接続

バックアイカメラ接続端子
EP001C (バックアイカメラバック)のカメラまたは別売のバックアイカメラを接続

※接続コード⑤はバックアイカメラのリバース連動等のために使用します。
接続コード⑤を使用しない場合でも、本機のご使用は可能です。
接続コード⑤の取り付けには専門知識が必要ですので、専門店または自動車ディーラーにご相談ください。

⑤接続コード



⑨ショートコネクタ

リバース信号端子(紫/白色)
バックアイカメラをリバース連動でメインユニットに後方の様子を表示させる場合に接続

車速パルス信号端子(桃色)
より測位精度を向上させる場合に接続

パーキングブレーキ信号端子(若草色)
車の停車状態を検知するために接続

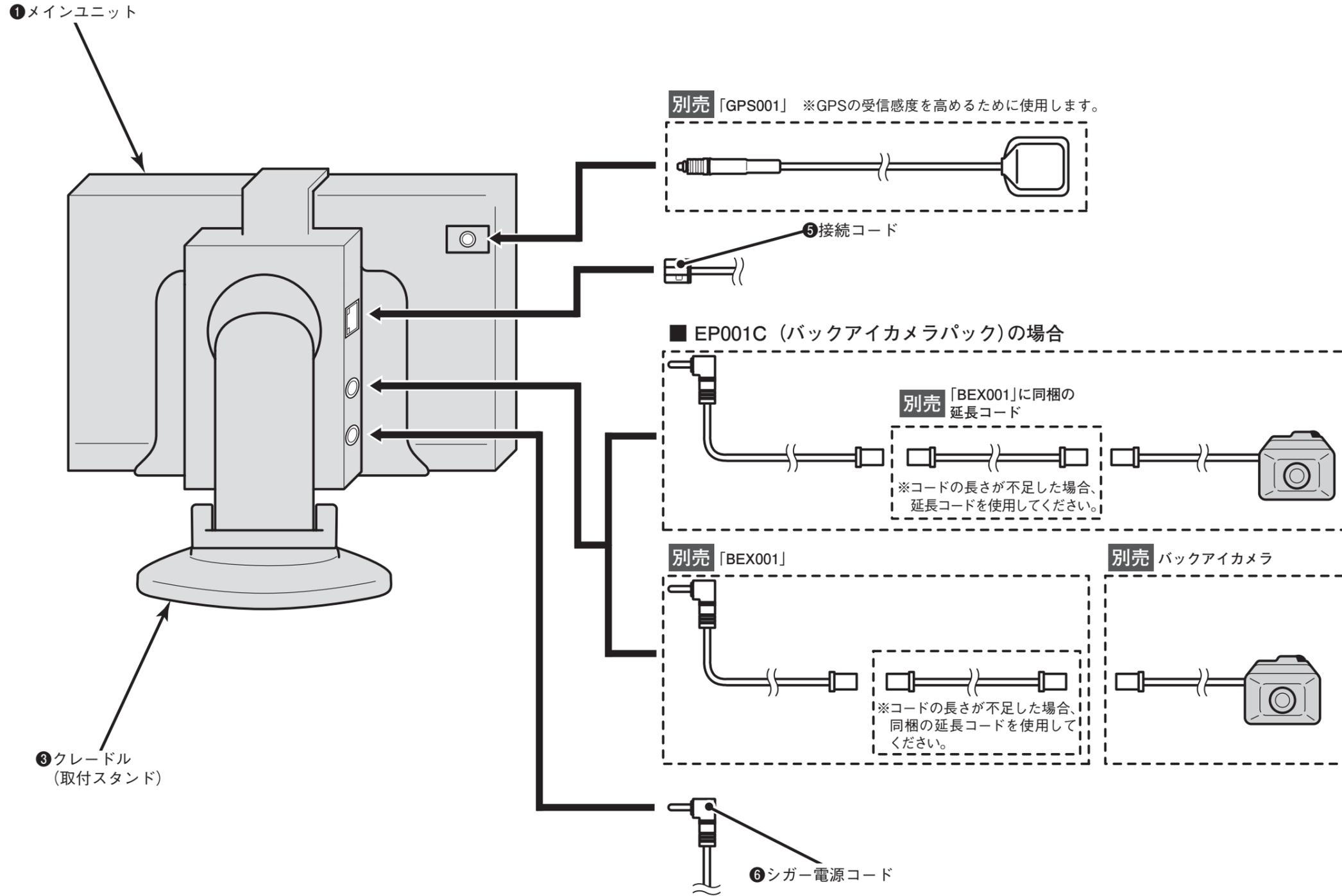
アースコード(黒色)
アースが確実に取れる車のボディに接続
(車速パルス信号端子を車両に接続する場合に接続)

⑥シガー電源コード

シガー電源

●システム接続例

接続する機器の取付説明書を確認して取り付けおよび配線を行ってからメインユニット、クレードルに接続してください。



取り付け後の作動確認

📌 アドバイス

- お車に取り付けてご使用になるとき本機のバッテリーが消耗していると、電気回路を保護するためエンジンスイッチの操作に連動して電源が入りません。電源が入らない場合は、本機側面の電源ボタンを操作してください。
- 本機のバッテリー残量が少ない場合、電源を入れることができません。その場合、数分間充電してから電源を入れてください。

1 車のエンジンをかけメニューを表示させる

- 起動中に、ACC OFFなどの操作をしないでください。
- シフトポジションや周囲の安全を確かめてから車のエンジンをかけてください。



注意

必ずエンジンをかけてからシガー電源コードをお車へ接続してください。シガー電源コードをお車へ接続した状態でエンジンをかけるとシガー電源や本機の故障の原因になることがあります。



2 見通しの良い場所で各信号の接続状態を確認する

- 接続コード①を接続している場合のみ、本作業をおこなってください。接続コード②を接続しない場合は、本作業は不要です。

① **メニュー** ボタンを押し、**設定をする** にタッチする。

② **システムチェックをする** にタッチし、それぞれの接続状態を確認する。

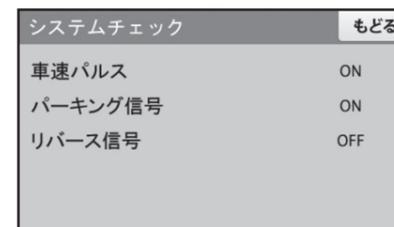
メニュー画面



設定画面



システムチェック画面



お願い

●車速パルス

接続状態画面で走行すると走行状態を確認することができます。表示が変わらないときは、車速パルスの接続状態を確認してください。

●パーキング信号

パーキングブレーキがかかっている場合、表示が“ON”に、パーキングブレーキがかかっていない場合、表示が“OFF”に変わります。表示が変わらないときは、パーキングブレーキ信号の接続状態を確認してください。

●リバース信号

バックギヤ以外にシフトしている場合、表示が“OFF”に、バックギヤにシフトしている場合、表示が“ON”に変わります。表示が変わらないときは、リバース信号の接続状態を確認してください。